

たまりば

2020年度 夏号

Communication 通信

◆ 発行日 2020年7月 ◆ 発行 認定NPO法人 フリースペースたまりば

〒213-0022 川崎市高津区千年435-10
TEL 044-833-7562
FAX 044-833-7534

<http://www.tamariba.org>
E-mail : freespace@tamariba.org

どんな時も夢パークを開き続ける理由

新型コロナウイルスの感染が広がり、緊急事態宣言が出されたときに悩みました。ほかの多くの施設のように閉めるべきか、開くべきか。

「この病気にかかりたくはない」「自分がうつしてもいけない」。スタッフ同士でも、市職員の方たちとも、いっぱい話し合いました。子どもたちの意見も聞きました。みんなで出した結論は、「開き続けよう」でした。そのワケは？——学校が休みになり、親が仕事で休めない家庭の子たちが、誰もいない家で、一人で過ごさなければならない。ご飯は食べられているのだろうか。日本医師会のポスターに「遊びは子どもの主食です」と書かれている。思い切り遊ぶことができない日々が続くと、子どもたちのこころとからだに心配。外にも出かけられずストレスがたまったら、兄弟げんかが増えるのでは？ それを見ていて親がイライラするのは？ 子どもたちが夫婦げんかのとぼっちを受けないか？ 仕事に行けずに親がずっと家にいることで幸せが広がる家庭はいいけど、そうでない家の子は逃げ場がない。

夢パークは子どもの権利条例をもとにできた施設。オープンした時から大切にしてきたことは「子どもの居場所」を守り、つくり続けること。安全で、安心していられる場があること。困ったときに、「助けて」が言えること。そのためにはいつもとかわらずに、自由に行ける場があることが大事。そこにいつもの知っているスタッフがいることで、安心して話ができ、言葉にできない子どもの SOS を発見することができる。ウイルスの恐怖で心がつぶれそうな時も、仲間と一緒に遊ぶことで、心も晴れる。それはおとなも一緒。親子で家にこもっていると孤独と不安で押しつぶされそうになってしまうけど、ここに来れば仲間に出会える。ホッとできる。そういう場は必要なのですね。

だからこれからも、感染拡大防止に十分気をつけながら、行政と協議のうえで、夢パークは開き続けていこうと考えています。

<西野博之／夢パークつうしん 2020. 6-7 月号掲載>



開け続けた夢パークでは、毎日様々な工夫のもとで感染拡大防止を心掛けつつ、もともとあるものやいただきものを使ったりいろんな遊び

が生まれています。大きな塩ビ管の上に乗ってバランスをとりながらリレーしてみたり、ペットボトルのキャップを使って野球やカーリングをしてみたり、スポーツ広場に引かれているバスケットやバレーボールのライン上だけを通して逃げたり捕まえたりできる「オンライン鬼ごっこ」をやってみたり…。

また、若者やボラの方たちが夢パオオリジナルの足踏み式消毒液置き場や、簡易手洗い場などを制作、来場者の手指消毒徹底に一役買っています。

ほんの一部しか紹介できませんが、子どももおとなもアイデアや知恵を出し合い、夢パならではの工夫をしながら、毎日を楽しんでいます～！（しもん）

認定NPO法人
フリースペース
たまりば
って…？

1991年川崎市高津区で、学校や家庭、地域に居場所を見出せない子ども・若者たちの居場所として活動をスタート。2003年にNPO法人の認証を受け、同年7月にオープンした「川崎市子ども夢パーク」内の不登校児童・生徒のための居場所「フリースペースえん」の運営を市より委託される。指定管理者制度の導入により、2006年4月から川崎市生涯学習財団と共同で夢パーク全体(フリースペースえんを含む)の管理・運営を行なっている。さまざまな活動を通じ、学校外の多様な学びと育ち、生き方を支援している。

たまりバラエティ

新たな試み！

「フリースペースえん・オンライン」

5月半ば、緊急事態宣言の真っただ中・・・あんなにワイワイ賑やかだった「えん」も、すっかり人が減ってウソみたいに静かに。みんなどうしてるのかなあ。みんなの顔が見たいなあ。色々考え、Web会議アプリのZoomを使って、みんなとつながろう！ということに。「動画とか見られる環境、ある？」「Zoomで何かやるとしたら、見たい？」と、えん会員にアンケートしたところ、「見たい」という声が多かったので試みることに。「フリースペースえん オンライン」、略して「えんらいん」と名付けてスタート！しばらく「えん」には来ていなかったけど、「えんらいん」で顔を合わせて「久しぶり！元気だった？」と話せてすごく嬉しかった！「えんらいん」への参加は難しい、と答えてくれた人たちは、お手紙や電話でつながっていきたくて思っています♪（もぐ）



屋根裏スペースが変身します

フリースペースえんの二階部分の屋根裏スペースに、部屋ができます。5月末から工事が始まり、8月いっぱいまで工事が続きます。みんなが使えるようになるのは、10月からの予定です。夢パークは、つくりつづける施設としてできて17年目。屋根裏スペースを部屋にしたいという声は、ずっと出ていました。それが今回、えんの登録者が増えてきて、えんの中がとても混雑していること。夢パークでの中高生の利用をもっと増やしていきたい。そんなことが理由となって、子ども・若者の居場所の充実を目指して、川崎市が部屋をつくることになりました。

「こんな使い方をしたい」「あの部屋でこんなことができるんじゃない」などなど、これからみんなでどんどん考えていけたらと思います。（ダイスケ）

あったかいね “いただきました”

新型コロナウイルスが現れて早数ヶ月、テレビをつけるとハラハラドキドキするようなニュースばかりが流れていますが、えんの中にはあたたかい“いただきました”の話であふれています。感染拡大対策のための必需品である消毒液やマスクをわざわざ探して買ってきてくれるOBたちがいたり、子ども食堂の運営が止まる中で活動しているえんに使ってほしいと食品を持ってきてくれる関係団体や企業の皆様がい



たりして、えんの中にはダンボールの山が！えんに集まったものは必要としている人へ受け取ってもらうこともあり、たくさんのご縁の中で共に生きているんだなとしみじみ感じる日々です。みなさん、いつも本当にありがとうございます。わたしたちが力になれることがあれば、いつでも連絡くださいね。（はるひ）

手作りマスクでつながる気持ち

4月の中旬、京都の染色家・染めのおっちゃんこと齋藤洋さんから、医療用ガーゼの贈りものが届きました。半田市の石川のぶ子さんの手によりつくられたもので、ふわふわとやさしい手触りのステキなガーゼです。岩手・田野畑村のハックの家のみんなが揃ってマリゴールドで染めた防虫効果のある辛子色のガーゼと見本のマスクも。さっそく見本を見ながらみんなでチクチクと縫い始めました。

この頃、川崎で野宿者支援をしている方から「手作りマスクを作ってください」という呼びかけがあり、えんのみんなで作って送ろうと声を掛けました。「えんには行けないけれど家に居るから作るわ」と送ってきてくださった方も。川崎



で野宿している人たちに「一緒に乗り越えましょう」「お互い頑張りましょう」とみんなからの一言メッセージカードも添えて手作りマスクを送りました。（たかこ）

指定管理施設

『やってみたい』がいっぱいある場所です
川崎市子ども夢パーク

川崎市高津区下作延5-30-1
TEL 044-811-2001 FAX 044-850-2059
<http://www.yumepark.net>



ブリュッケだより



～緊急事態宣言発令から現在までのブリュッケは？～

この春は、世界中で新型コロナウイルスの感染が広がり、日本でも緊急事態宣言が発令され、今まで経験したことのない不安な日々を過ごすこととなりました。そして、感染防止を考える上では、人と接する機会や時間を極力減らすことが望まれ、それまで居場所づくりで大事にしてきた人との出会いや体験の機会を自粛することとなりました。ブリュッケでは、緊急事態宣言前後も定期的に川崎市と情報共有・協議して、若者たちが何か困ったことがあったり、心配ごとがあったりした時にいつでも通って来れるように、居場所は通常通りに開設しました。フードバンクなどからの食材支援が届いていることも定期的にメンバーに通知し、家での自粛生活を送っている若者たちへの発信も行いました。緊急事態宣言が解除された現在、少しずつ若者たちが居場所に足を運べるようになりました。この期間にそれぞれが何を考え過ぎてきたかを少しずつシェアしながら、今後の新しい形の「安心して過ごせる居場所」を若者たちと一緒に考え・作っていったらと思います。(佐藤)



HAPPYスレブリディ

★暑い日、ひきよせられるように裸足で“せせらぎ”に入ったことをきっかけに、せせらぎ流しの挑戦が始まりました。細長い葉に大きな葉、紅葉や花やハビイチゴ…一番上から溜まりまでどの舟がより速く辿りつくか。それを阻むのは枝葉の塊、小さな滝、並んだタイヤ。舟を追う眼差しも熱くなり「ついたー！」と思わず歓声が響きました。(けい)

★新型コロナウイルスの影響により、なかなか普通の遊びができません。いっぱい考えて新たな遊びを編み出しているけど、今も昔もみんな大好き！パズル遊びがえんでまた流行っています。各々が黙々と集中して取り組めるパズル遊びは、このご時世にもピッタリ！「はまったぞー！」。静かなえんで、たまに楽しそうな歓声が上がります。(しもん)

★お昼ご飯をみんなで食べ終わって、「あ～おなかいっぱいだあ、コーヒーでも飲みたいなあ」と思っていると、いつもいいタイミングで「やっほー」と現れるOBケースケ。自前で揃えた道具や豆を持参し、ハンドドリップで丁寧にコーヒーを淹れてくれるこのひと時…毎日の癒しの時間です。ケースケ、いつも美味しいコーヒーをありがとう！(もぐ)

西んのつばやき



多くの学校が再開となったものの、コロナの感染者数は、いっこうに減る気配はない。新型コロナに感染したくない子どもとその親の申し出を受けて、大阪府の寝屋川市では「選択登校制」の導入が始まった。小中学校の児童生徒が「登校する」か「オンラインで授業を受ける」かを、子どもと親の主体的判断で、各家庭の希望に応じて選べるという。授業はライブ配信され、子どもたちはタブレット端末やスマホを使って、家庭で視聴できる。家にいても、リアルタイムで授業が受けられるということだ。しかもオンラインで授業を受けても、欠席扱いにはならないという。この取り組みは福岡市、熊本市などでも広がつつある。広く感染が拡大した新型コロナの影響で、まさかこんなに早く学校教育に変化がもたらされるとは、想像もしていなかった。

今まで30年近く「学校はいのちを削ってまで、行かなければならないところではない」と言い続けてきた。学校に行きたくても行けないで苦しんでいる子どもたちが、在宅を含めた「学校外」で学ぶ道を切り開こうと運動を続けてきた。今年3月の厚労省の発表では、昨年1年間に自ら命を絶った小中高生の数は399人。大学生・専修学校生まで入れると888人に及ぶ。昨年10月の文科省の発表では、全国の教育委員会で把握できたいじめの認知件数は約54万件。そのうち命にかかわるような重大事態と認められた件数は600件もある。学齢期の子どもだけに焦点を当てると、コロナの影響よりも深刻な状況が、すでに毎年、子どもたちの身の周りで起きているのだ。ならば当然、不登校の子どもにもこの仕組みが適用されてしかるべきである。

国の方針でもあるが、川崎市は今年度中にすべての小中学生にパソコンの配布を決定した。あとは通信料をどうするかを早急に検討し、格差がこれ以上広がらないようにすべきことは言うまでもない。「コロナと共に生きる」時代は、いま始まったばかり。ともすれば「少数者の問題」「他人事」とされてきた不登校児童生徒の学習権の保障に関する問題。新型コロナの第2波・第3波の到来に備えるいま、またしても長期間登校できない時代の到来も予想される中で、「大多数の人の問題」「我がこと」として考えられる時代が訪れた。様々な子どもたちの学び育つ権利をどのように保障していけるのか、そこが問われている。(西野博之)



川崎若者就労自立支援センター
ブリュッケ

「Brücke」は、ドイツ語で「かけ橋」。

居場所で人と人がつながり、居場所から地域へ、地域から就労へ、様々なつながりが生まれていく。

そんな人から人への「かけ橋」になっていけたら…。

*ブリュッケでは、川崎市内にある福祉事務所のケースワーカーと連携し、15～29歳までの若者たちの居場所・就労支援を行っています。

インフォメーション

★詳しくは事務局まで★

※夢パまつり 2020、八丈島キャンプ、雑居まつりは中止となりました。

新型コロナウイルス対策による、その他のイベント・企画の実施等の変更については、開催日が近づきましたらホームページでご確認をお願いします。

たまりばホームページ <http://www.tamariba.org>

Facebook

<https://www.facebook.com/tamaribaNPO/>

フリースペースって、どんなところ？

「不登校」「ひきこもり」の子ども・若者の居場所づくりについて、画像等をまじえて「夢パーク・フリースペースえん」の活動紹介と質疑応答など意見交換を行ないます。

第3回 8月22日(土) 10:00~12:00

第4回 10月10日(土) 10:00~12:00

対象 フリースペース(居場所)の活動や、不登校・ひきこもりについて関心のある方
会場 川崎市子ども夢パーク内「多目的室」
参加費 500円 <要予約・先着15人まで>
申込み 第3回 7月1日、第4回 9月2日、ともに12:30から受付開始

※申込みの際は詳細をホームページでご確認ください。

ご支援いただきありがとうございます

(2020.3.19~2020.6.18)

NPO法人フリースペースたまりばに、応援会員として会費を入金してくださった方、カンパをいただいた方のお名前です。

(敬称略・順不同。希望されない方は掲載していません。)

なお、掲載もれなどの不備がございましたら、事務局までご連絡ください。

青木和雄、伊藤多美恵、大田祈子、石戸ナナ子、宇井新・のどか、池田博毅、中村勇、宮崎芳正、山田恵理子、齋藤こえ子、上田春美、佐々木直人・ともの、山本哲也・将也、田老伸匡・幸子、島村愛、興水典久、竹内昭・太郎、赤井英明・美智代、清水善幸、鈴木みしお、中西拓子、内川朗子、新田学、村岡美和子、松浦幸子、小林民、石橋充行・大吉、篠原真紀、西川光、吉田裕子、平井康大、神辺朋子、長谷川和子、小濱華子、高田裕子、岡本恵子、柳橋小夜子、波瀬浩子、大塚朝子、中山厚紀、友兼清治、宮崎静香、山口圭子、満田雅子、伊原美枝子、石田静子、石川共平・絵美、門田啓子、藤川英之・昂大、岡野匡・慈、岡本宏次、玉寄勝治・玲、田村虎羽、渡邊敬・未希、橋本誠一・碧、長谷川俊雄、吉田哲也、安西卷子、小室卓重、Hashimoto Yuriko、飯沼光津子、用害比呂之、吉仲理恵、山本真理、山口正芳・いづみ、寺西智恵理、堤彰子、長瀬文香、斉藤悠馬、園田京子、森光子、浜谷典子、小坂陽子、西村幹子、藤田友子、坂上優子、石井秀和、鈴木健一、武井哲郎、野村美湖、Lee Yuko、田坂知樹、福田麻衣子、大野高弘、木崎志保、本間良太、岡安玲、原陽子、中川裕子、赤野香織、茂木潤、細田和恵、光富真希子、天野溪、愛甲香織、能條申子、千葉志門、榎戸貴子、友兼大輔、西野博之、ピースフル・明石、コンペイトウ、かわさき生活クラブ生活協同組合、有限会社ケイハウス

応援会員募集中!!

フリースペースたまりばの活動のためにあなたのお力が必要です!

月払い会員、年払い会員、個人会員、団体会員など各コースあります

振込先→郵便振替口座 00200-2-57382 特定非営利活動法人 フリースペースたまりば

*郵便局の自分の口座からなら、手数料が無料で振り込めます。

※他金融機関からも入金できるようになりました。口座番号は↓(支店名を「セ」で検索してください)※

〇二九(ゼロニキュウ)店 (029) 当座 0057382

詳しくは事務局まで TEL 044-833-7562